

## 第1ラウンドはリスク許容度改善の良ドル安に軍配

昨日は、米5月消費者信頼感指数の大幅な改善を受けてNYダウが5日ぶりの大幅反発となり、為替市場ではリスク選考フローの典型であるドル安・円安/非ドル通貨高が促された。

注目の米3月S&Pケース・シラー住宅価格指数は、主要20都市圏が前年比18.7%の低下で、第1四半期の住宅価格は前年同期比で過去最大の落ち込みとなったため、リスク忌避的な売りが先行した。

しかし、このあと米コンファレンス・ボードが発表した5月の消費者信頼感指数が54.9と2003年4月以来の大幅な伸びを示し、半年程度先を示す期待指数が72.3と2007年12月以来の水準へ上昇するポジティブ・サプライズとなり、米主要3株価指数の急反発を促した。

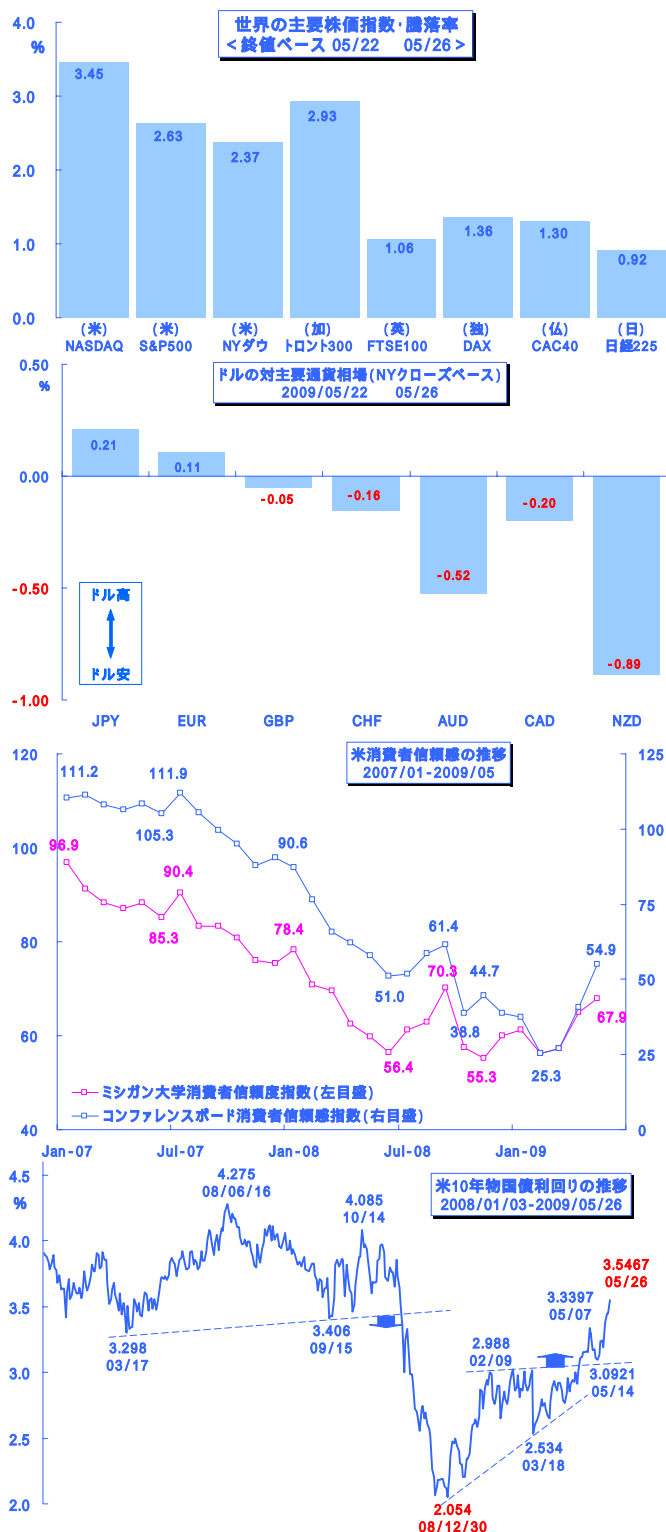
さらに、懸案の発行総額400億ドルの米2年債入札は、投資家の需要を測る指標の応札倍率が2.94倍と、過去10回の平均である2.43倍を上回る順調な結果となり、外国人投資家が米国債から資金を引き上げるとの懸念を和らげた。

(海外中銀を含む間接入札の割合は54.4%と過去10回の平均34.6%を上回っている)

つまり、第1ラウンドはリスク許容度改善をテーマとする良ドル安(ドルキャリア・トレード)に軍配が上がる格好となったわけだが、本日、第2ラウンドでは米連邦破産法申請が不可避となっているGM問題や、投資家の景気回復期待を裏切るかもしれない4月中古住宅販売といった注目指標の発表が予定されており、予断を許さない局面にある。

また、米国債の大型入札については、本日が5年債の350億ドル、明日が7年債の260億ドルと、昨日の2年債よりも期間の長い年限となるため、FEDの金融緩和解除(出口戦略)を前提とすれば安定消化のハードルは高くなっていく。

昨日の米債券市場は2年債入札が順調だったにもかかわらず3日続落で、長期金利の指標となる10年債利回りは3.5467%まで上昇している。今朝の日経CNBC朝エクスプレスでは、コメンテーターが米景気回復期待を背景とする良い金利の上昇と解説していたが、長期金



当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご留意ください。

利上昇と株高の共存の持続性も焦点の一つとなってこよう。

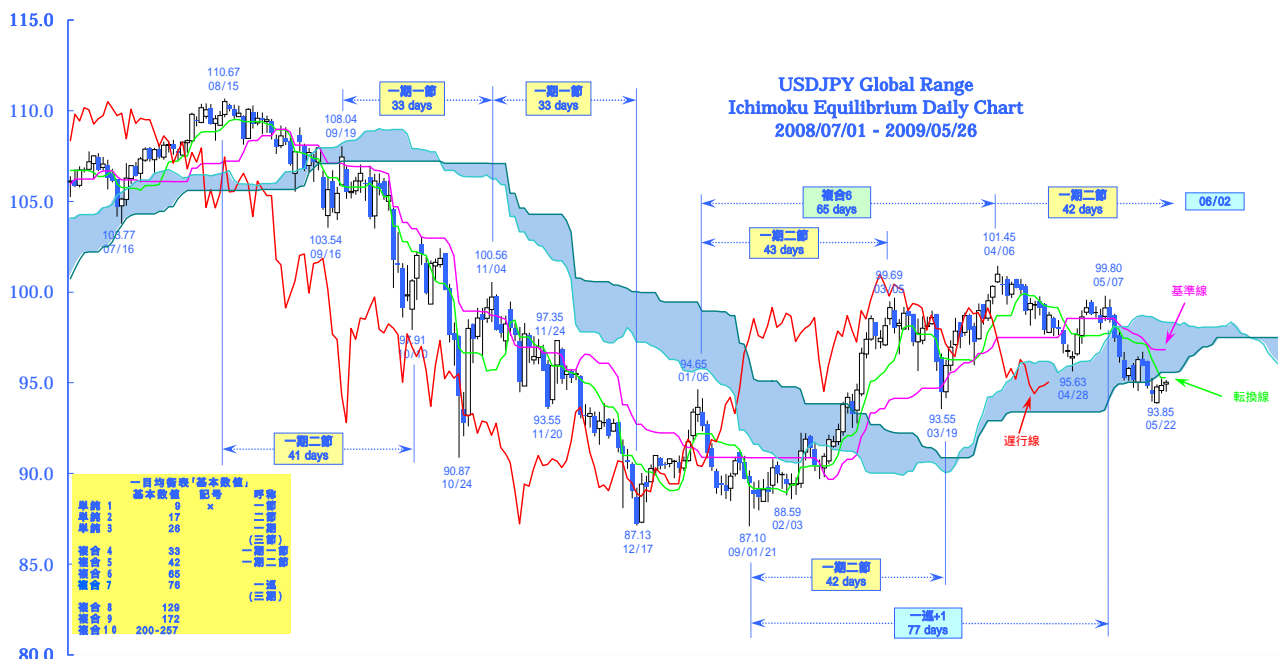
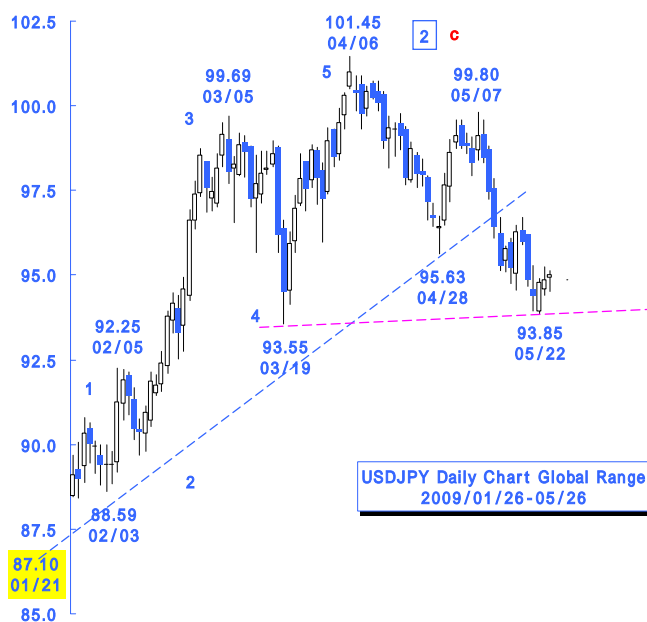
そして、米消費者信頼感指数で示された消費者マインドの改善については、それが実際の消費につながるかどうかが次なる焦点となり、来週発表の4月の個人消費支出が重要な示唆を与えてくれることになる。

さて、足下のドル/円は仲値計算値の93.82円処に対応する93.85円(05/22)で下げ止まり、下値固めの様相となっている。

本日11時現在では、上値攻防の焦点であった日足均衡表の『転換線』の95.28円処を上抜けており、『雲の下限』が位置する95.58円処を試す展開となりつつある。

もっとも、NYクローズベースで『転換線』を上抜くことが重要であり、『遅行線』の現在性からは下値93.40円処 上値96.06円処(明日は95.56円処)をコアとする揉み合いが続きそうだ。言い換えれば、このコアレンジを抜けた方向へバイアスが掛かる可能性が高まるということになる。

101.45円(04/06)を起点とする下落波動は、初動で95.63円(04/28)へ下落したあと99.80円(05/07)まで戻し、このあと93.85円(05/22)まで三波構成で下落している。この下落波動が三波で完結するのか、五波構成に発展するかが焦点となるが、110.67円(08/15)を起点に中勢下落波動である<3波>(五波構成)が進行中という点に鑑みれば、101.45円は小勢2波のトップとなり、現状は小勢3波の下落波動が進行中と解釈されるため、このラベリングが正しい場合は五波構成に発展することになる。つまり、直近の安値93.85円が通過点になる可能性が高いため、戻りは絶好の売り場と捉えていきたい。(5月27日 11:35記)



当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご留意ください。